

成人者は七二三名

盛大だった成人式

去る一月十五日公民館で行われた第十回留萌市成人式は、該当参加者四二七名に達し盛況をきわめました。式は国歌斉唱に始まり、支那市教育委員長の式辞、中川市教育長から成人者に贈る記念品の贈呈があり(代表者山本彰子さん)、留萌市長外数の祝辞のあと、成人者を代表して大川壽幸君は次の様な宣言を行いました。

一、私達は私たちが育



(寫眞上は記念品の贈呈)
(寫眞下はスキ―講習會)

メートル法ものがたり

ヨーロッパにスタジアムと呼ばれる距離尺がある。約一八〇メートルから二〇〇メートル。これは朝の太陽が砂漠の地平線に朝の太陽がのぼるときに始まる。最初光線がピカッとさした瞬間から人が太陽に向って歩き始める。太陽が地平線の上に完全に姿をあらわした瞬間に歩くのをやめる。この間の距離を「スタジアム」と云う。この間約二分間。スタジアムの長さはいかに短かろうと、一、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

スキー講習會

終る

留萌市教委、留萌スキー連盟主催の一般スキー技術講習會及び檢定会は十七日から三日間開かれ、七八名の参加者があり熱心に受講しました。

技術も年々向上しており、全日本スキー連盟技術指導員二瀬康典、宮崎兼光、富田友治の三講師も札幌方面よりも一般的レベルが上であり留萌地方のスキー振興が期待されると好評でした。

檢定会には三七名の参加



(寫眞上は記念品の贈呈)
(寫眞下はスキ―講習會)



ねずみごり

一月二十八日より二月二十八日まで、昨年十一月二十五日から十二月二十五日まで、ねずみ退治運動月間をいたしましたところ、皆さんの御協力により、お願ひ申し上げます。

①期間中
②おとなねずみを二、四十円で買います。
③又期間中に最高とつた一人だけだけに最高捕獲賞を授けられます。

④おとなねずみは市役所厚生課へ印をもつてお出下さい。

『図書館だより』

二月の行事
一、定例レコードコンサート
五十一回 二月十四日 (金) 后六時半
五十二回 二月二十八日 (金) 〃
曲目は後日新聞に發表
皆採氣にて御参加下さい
二、寫眞展「アメリカの名所」
二月一日から二十八日まで図書館に展示します。

市民講座

二月十日から
昭和三十三年第二期第二期市民講座を左記の通り開講します。是非参加されまうお知らせいたします。

一、期日 二月十日より三月二十四日まで毎夕六時半より八時半まで
二、場所 留萌市公民館
三、受講料 一講座 各堂百円
四、資格 満十五才以上の市民
五、申込期日 二月七日
六、申込先 留萌市教育委員会教育課
七、開講式 二月七日午後六時、公民館二號室で
八、受講生が十名に満

留萌港の波浪

△「要するに、海洋の観測といつても實際に行われているのは、箇所からみると期間からみると冬の明るい衛生を築き上げるため、皆さんの御協力を願ひ申し上げます。」
△「期間中」
△「おとなねずみを二、四十円で買います。」
△「又期間中に最高とつた一人だけだけに最高捕獲賞を授けられます。」
△「おとなねずみは市役所厚生課へ印をもつてお出下さい。」

△「オツカかないよ。」
△「そらだろ。そしてそれが市民全体の聲だと思つてお願ひ申し上げます。」
△「留萌の人々は海に對して明るい親愛の氣持を抱いていて決して暗いものを感じていない。海荒れか二番とか言ふ時は、今までの観測された中で一番という但書きがつくことになり、これは古い記録だけれど、諸大洋に於て實測された波の大きさ、という表がこつちにあるから見てごらん。」

△「すきと留萌は世界のベストスリーに入らないわけね。」
△「波の荒いのにはベストスリーというのではないだろうが、今おじさんの手にもある資料だけでも、留萌より波浪の大きい所は澤山あるということになる。」
△「ということになると、留萌の名物一つ減ることになる、いたましいこと。」

△「その氣持はよくわかるよ。ところで君は留萌の海をどう思う? オツカないと思ふか、それともオツカないか?」
△「どうぞお願ひ致します。楽しみにしてお待ちしています。」

△「土着アイヌ人は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。」
△「その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。」

△「一にかんたん
二に便利
三に能率メートル法」

諸大洋に於て実測された波の大きさ (第二表)

海 洋 名	波 高 (M)	波 長 (M)	速 度 (M/S)
大 洋	6.71	532	4.50
西 洋	6.60	100	8.10
南 洋	6.00	78	7.35
北 洋	6.00	91	7.20
東 洋	6.70	104	7.86
中 洋	5.10	65	6.86
南 洋	8.00	170	15.00
北 洋	7.00	271	—
東 洋	10.25	158	7.50
中 洋	7.00	580	—
南 洋	11.50	240	—
北 洋	6.50	165	—
東 洋	7.50	250	—
中 洋	14.00	230	26.00
南 洋	33.00	230	5.00
北 洋	6.10	540	—
東 洋	6.10	132	12.50
中 洋	12.00	150	—
南 洋	6.00	100	—

男子では一五から一五(五)が正常です。一八(〇)ミリ水銀壓を越える人は常時醫藥を要します。

郷土室

酒原角兵衛は土人を指導し扶助するとともに、海底のどろあげ、或いは留萌川を改修して、舟の出入を便利にしたり、或いは倉庫を作るなど、開拓に努力したのであります。

天明六年近藤重蔵日記中西蝦夷分間によれば、ル、モツベ持場(レウケよりラニシカまで凡そ八里) 松前直領請負人、江戸酒原角兵衛の手代、吉次

酒原角兵衛は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。

その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。

酒原角兵衛は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。

その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。

酒原角兵衛は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。

その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。

酒原角兵衛は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。

その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。

酒原角兵衛は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。

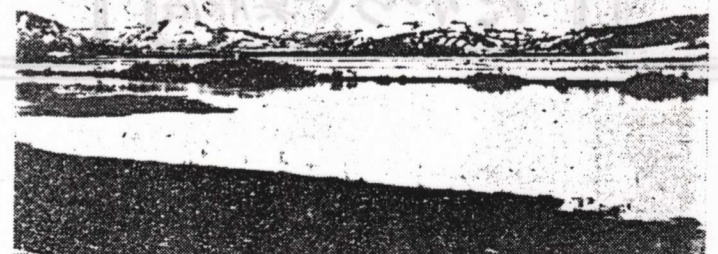
その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。

酒原角兵衛は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。

その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。

酒原角兵衛は、幼稚な漁具と漁獲方法によつて自治の爲の漁業を営んでいたものでありますが、突如彼等を驚かせて、和人の一隊が、開拓の先驅者村山傳兵衛に率いられて、この地に來たのであります。

その後留萌漁場の請負人として出現した六代酒原角兵衛は、始め白谷に居を定めて、漁業を開始したので、やがて留萌川口の地が、漁業の中心地として發展するのに適当地であること考へて、その頃コタン地名でアイヌ人が群居した現在の元町の地に、永住の基を築いたのであります。



寫眞は舊留萌川